

# 立教開宗750年を 迎えるにあたって

日蓮聖人門下連合会理事長  
**伊藤通明**



発行  
日蓮聖人門下連合会  
東京都大田区池上1-32-15  
〒146 電話(03)3751-7181  
平成4年8月15日  
第11号

平成十四年は、日蓮聖人が清澄山上旭ヶ森において、南無妙法蓮華経を創唱されてから七五〇年の佳節に当る。この機に向け、日蓮聖人門下連合会は一致結束して今から準備を始めなければならない。

来る平成十四年、二十一世紀の初頭という「時」にえらばれて、立教開宗七五〇年を迎える。

清澄寺における道善御房の持仏堂で、日蓮聖人がはじめて法華経こそ一切経の経王であり、南無妙法蓮華経と法華経の題目を始唱された事跡は、私たち日蓮門下にとって、信仰と弘教の原点であり、この立教開宗の精神をうけつぎ今日に活かす事はずっとも大切な使命といわねばならない。

法華経の行者へ——日蓮聖人は「必ず日蓮が命を成るべし」との覚悟を抱かれ、いくたの困難にも挫けぬ不屈の決意をこめて、諸宗のあや

## 門下連合会が目ざすべき 四点について

同時に、日蓮聖人が自主独立の弘通に立ちあがり、浄円房ほかわずか



日蓮聖人像（旭ヶ森山頂）

の人々に向って正法を説いた点も忘れてはならない。真理は少数よりはじまるという。苦難をいとわない決意と衆生救済、報恩成就の誓願を抱いて、法華経の真理をひろめようとされた日蓮聖人の大いなる慈悲にふれ、その菩薩行の一分を現代に展開することこそ私たち日蓮門下の共通の目標であらう。

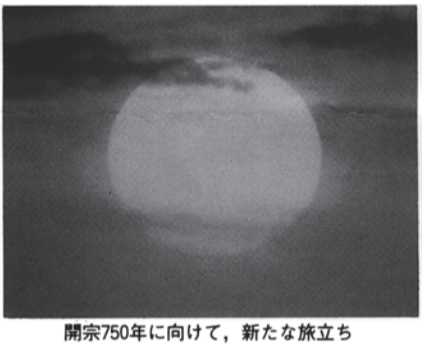
## 二十一世紀に求められる 「立正安国」

日蓮聖人門下連合会は、結成以来、三十年余の歩みを刻んできた。この間、多くの先師各聖によって数々の事業・行事がいとまれ、さまざまな成果をうみ出してきた。日蓮聖人第七百遠忌における報恩事業は、その代表的成果であった。

日蓮聖人門下連合会として結束し、異体同心をより一層強固にし、協力しあって立教開宗七五〇年を慶讃しつ、正法弘通を展開するならば、必ずや、実ある多くの成果を挙げられるにちがいないと確信している。

そのためには、第一に、先にあつたように日蓮聖人立教開宗の精神、その決意と誓願を私たち日蓮門下が共有しあうことが不可欠である。

第二は、日蓮聖人が清澄山で初めて法華経の弘通を宣言された意義を改めてたしかめあい、報恩実現、立正安国達成の布教活動にとりくむことである。これを具体化するためにも、門連としての立教開宗布教態勢の確立と相互協力が求められよう。



開宗750年に向けて、新たな旅立ち

関係の危機、さまざまな生活上の悩み、環境破壊など種々な問題が山積している。世の平安を求め心の渇きに潤いを与える仏の教えをいかに説き示し、立正安国の祖願達成に励むべきかは立教開宗七五〇年を迎える日蓮門下のとりくむべき課題となっている。

第三は、日蓮聖人門下連合会結束の原点といわれている祖廟における異体同心の誓いをあらたにし、輪番奉仕など祖廟護持のための信仰的・組織的強化を一層充実してゆくことが重要であらう。

## 開宗七五〇年は 布教システム確立のチャンス

日蓮聖人門下連合会に加盟している門流は長い歴史と伝統をもっている。その過程で教義や組織面などに特色はあるが、ともに日蓮聖人を末法の大導師として仰ぐ「日蓮が弟子」である。

この「日蓮が弟子」として志を共有しあひ、異体同心の祖訓を真に血のかよものにしてゆく努力なしには、立教開宗七五〇年を迎えて、共通の布教活動を展開することは困難であらう。

また、門連の要路にある各聖はもとより、日蓮門下各寺院、各師が、「日蓮が弟子」としてであるという親近感を強く抱きあひ、全国各地で、立教開宗七五〇年とそれをめざした布教システムや布教活動を協力して如何に進めるべきかを語りあひ具体化してゆくことにより、立教開宗七五〇年慶讃の布教は始めて全国的に展開できるにちがいない。その意味で、日蓮門下各寺院、各教師が手をたづさえ、力をあわせて



伊藤通明理事長

さし示し、法華経の題目によって仏になる道を皆ともに歩んでゆく展望をきり開いてゆくならば、それは「第二の立教開宗」ともなり得るのではないだろうか。少くとも単に時間的に立教開宗七五〇年を迎えるからといった安易な考えではなく、「強盛の菩提心」をおこし、誓願を心に刻みつけて、お題目を弘通し、日蓮聖人の体得せられた法華経の教えを語りひろめる努力を積み重ねてゆくべきである。

## 出涌地

☆平成六年四月、海外開教の先駆者、日持上人の第七百遠忌法要が日蓮宗総本山身延山久遠寺で奉行される。日持上人は、建長二年（一一五〇）、駿河国（静岡県）庵原郡松野の地に生まれ、幼名を松千代と称されたと伝えられている。上人は「月は西より東に向へり。月氏（印度）の仏法ノ東へ流ルべき相也。日ハ東ヨリ出ツ。日本ノ仏法ノ月氏ヘカヘルベキ瑞相なり」（諫曉八幡抄）という日蓮聖人の宿願であった本化の妙法を漢土、月氏へ帰すという海外への伝道に命をかけたのであった。

☆本化別頭祖統紀には次のようにかかれていいる。「国内の布教は日昭、日朗両師以下、法将雲の如くであるから、それ等の人に依って充分である。われは異域に法を弘めて宗祖の素願にこたえ奉らん。たとえ海路に台風大魚の難にあうとも、むしろわが願う所」。この言葉を残し単身で北をめざしたという。（松村寿敏「日持上人」玉成十四号）  
☆日蓮宗では本年平成四年八月三十日、ハワイ開教九十周年記念法要が、岩間日勇管長現下大導師に、日本からも多くの信者が参加し、盛大に厳修される。日持上人を始めとする、多くの海外布教の先駆者が心血を注ぎ弘めてきた、その法勳をたたえる宗門を挙げての慶事だ。法華経日蓮聖人の精神が、世界に弘まることを目指して布教を行なってきた日蓮聖人門下にとつて、ひとつの区切りとなり、また新たな一ページとなる。  
☆日持上人第七百遠忌を平成六年に迎えるとき、門連各派がどのように開教布教に取り組んでいるのか、「門連だより」でとり上げたところかと思うが、いか





インド・多宝山仏舎利塔

# シリーズ門下御本山巡り ⑩ 日本山妙法寺

日本からインドへ、そしてヨーロッパ、アメリカに建立される仏舎利塔

南無妙法蓮華經 日本山妙法寺には、本山制度はありませんが、御祖師様が「身延の山を基として詣るべし」と仰せられてありますので、全山あげて二月八日の二回必ず御詣りをし、海外のお客様もその都度案内して参詣していただきます。

浦御草薙で人界一期の御別れをされ給いて、直ちに「本来の使命」西天開教に身延の御山を起点として出発されました。実に八月廿五日のことでした。

炎熱身を焼く印度の御修行三年にして、隨身一名を供とし、ガンジー翁に会い、わずか二十分の会見ながら互に肝胆相照して、日本の仏法はこの方によって受け入れられたのであります。

恩師御みづからの「ワラダ日記抄」に「西天開教の本誓願は時惟れ昭和八年十月七日、印度の中央高原の真中に位するワラダの眞理把持の道場に於て、印度独立の総師、末代比類なき聖賢マハトマ・ガンジー翁の為に説かれたのであります。(中略)先づ階上の御居間に案内せられた。待つ間もなく半裸体の翁は無雑作に席につき乍ら合掌答禮された。既に満面唯笑って居られるのであつた。羅漢聖者が人に会ふ時は毎に必ず先づ笑うて対う。と御経文に拝んだ事がある。(中略)翌八日、翁は「……毎日午後四時になるとあなたが方の勇ましいお太鼓の音を聞くのが大層楽しみになつた。お太鼓の音は私も好きだ」と仰せられた。そこで古い團扇太鼓をさし上げると喜んで南無妙法蓮華經南無妙法蓮華經と御手紙で見た南無妙法蓮華經の記憶を辿り乍ら寛束なげに打ちそめられました。



ワラダ博物館蔵

この日本山を創立されたのは藤井日蓮上人で、日蓮宗の九州臼杵の法音寺の御弟子さんであります。大正天皇御病悩の時、日本の将来を考え、陛下の御祈念をし、葉山御用邸で撃鼓宣令をされました。警察はこれを禁止したが止めません。ついに法音寺身延山にも苦情が行き、管長職の罷免を申し来りました。そこで日蓮宗でなく日本山独自の宗風、国家諫諍を続けられ、今日に至っております。

昭和五年二月二十五日、悲母行阿院日蘇大法尼遷化し給うや、熱海錦

日本山の撃鼓宣令の反響は印度独立運動の総師、現代唯一の聖賢釈迦牟尼の血統を伝えし民族の代表者によつて知音を發し、共鳴を表し、隨喜を表せられました。嗚呼、我が西天開教の本誓願果して時に中りに應じたのであります。三億万人の我が法音に対する隨喜の声は、今こそワラダの藝の中に於て溶けるが如き歡喜の声となつて、ガンジー翁の唇より洩れました。(中略)

此の人を外にして誰に印度の立正安國の法門が語られてよいものでしようか。立正安國の祈願、撃鼓宣令の法音は今正しく西天に伝わりました。ガンジー翁が南無妙法蓮華經の法鼓を撃ち日本の仏弟子がその一門に暮す時に、印度の独立は近き日に決定されたわけでありませぬ。嗚呼、我が高祖日蓮大聖人に負わされた日本國の重い使命を末法の今日西天に果たすことが出来ました。いかに私を敗しむ者があつても勝る者があつても、苟も法華經第六の卷如来壽量品の遣使還告の使命を西天にはたしたことに於て誰が否み得るでしょうか。永い間私の守り来つた苦節も今日のガンジー翁の一言に私は酬われてあまりがありません。私の撃鼓宣令の法門は茫茫たる三千大千世界の中に唯此の人を求めて鼓を撃つたのでした。此の人は果して我が此の人でした。ガンジー翁は果して我が此の人でした。ガンジー翁は果して我が此の人でした。(略)其の翁が今日忽ち日本神代古楽、立正安國の祈願たる南無妙法蓮華經の法鼓の音のみは何の疑念も挿まずに、直ちにその信仰生活の無二の知音として信受せられました。日本仏法の名を以つて打ち鳴らされた法鼓の響は即ち西天蓮田の翁の理想信念を資する天鼓の妙音ともなりました。印度の獨立運動の陣太鼓はガンジー翁が笑いくずれて撃つ一張の團扇太鼓の妙音でありました。ガンジー翁が我が日本山の西天開教の本意に隨喜して日本山の法鼓を撃ち喜ぶに歡喜信樂し、かくして印度が獨立する時に、我が日本仏法の為に如何なる役割を果たしたかと言ふ事を浮薄なる世間の人達はやつと論議することが出来るでございませう」とあります。

以来御太鼓と御題目は御祈りの時は勿論全印遊説の時もガンジーは撃ちつけられました。その記念すべき太鼓がワラダ博物館に保存されておりに、掲載いたしました。

ガンジー翁の許には、各国から獨立のための武器彈藥資金の申出がありました。皆断つて、只お太鼓とお題目にすがつて「自治は天から授かる」と言つて、近き印度獨立を信じ切つておられました。

かくてひたすら平和裡の獨立を祈り、一兵も殺さず一人も殺されぬ無血革命が成就されたのであります。



インド・多宝山仏舎利塔

・釈尊の足跡と仏教美術を巡る旅・

## インド

'92.11~'93.2  
全10コース  
各コース最小催行人員10名

<b>8大聖地巡り(11日間)</b>	<b>4大聖地巡り(9日間)</b>
<b>495,000円</b>	<b>428,000円</b>
<p>期 間</p> <p>① 11/29(日)~12/ 9(木)</p> <p>② 12/ 6(日)~12/16(木)</p> <p>③ 12/13(日)~12/23(木)</p> <p>④ 1/17(日)~ 1/27(木)</p> <p>⑤ 2/ 7(日)~ 2/17(木)</p>	<p>期 間</p> <p>① 11/25(木)~12/ 3(木)</p> <p>② 12/ 2(木)~12/10(木)</p> <p>③ 12/ 9(木)~12/17(木)</p> <p>④ 1/20(木)~ 1/28(木)</p> <p>⑤ 2/10(木)~ 2/18(木)</p>
<p>旅行日程</p> <p>東京=デーリー(泊)=バルランプル(泊)=クシナガラ(泊)=カトマンズ(泊)=車中(泊)=ラジギール(泊)=プダガヤ(泊)=ベナレス(泊)=アグラ(泊)=機中(泊)=東京</p>	<p>旅行日程</p> <p>東京=デーリー(泊)=ラジギール(泊)=プダガヤ(泊)=ベナレス(泊)=ゴラクフル(泊)=バルランプル(泊)=デーリー(泊)=機中(泊)=東京</p>

日蓮宗ご指定

主催 **日本旅行** 運輸大臣登録一般旅行業第2号

後援 **インド政府観光局**

\*お申し込み・お問い合わせ及び詳しいパンフレット請求は下記へお願いします。

**株日本旅行 新横浜支店 TEL045-473-7520 (担当 秋山)**  
 〒222 神奈川県横浜市港北区新横浜2-5-19 天幸第8ビル  
**株日本旅行 蒲田駅旅行センター TEL03-3733-8154 (担当 石田)**  
 〒144 東京都大田区西蒲田7-68-1 蒲田駅内



残暑お見舞い  
門下連台会



### 日蓮宗宗務院

管長	岩間 日勇	教務部長	石井 隆教
宗務総長	伊藤 通明	護法伝道部長	石川 浩徳
宗務副総長	佐藤 光春	現代宗教研究所長	石川 教張
総合企画部長	岩間 湛正	参	白部 健順
庶務部長	二宮 将泰	参	岡田 法順
財務部長	田中 恵康	日蓮宗新聞社社長	菊池 泰瑞

〒146 東京都大田区池上二丁目三十一番一五  
電話 〇三(三三)七五(一)七二八(一)代  
FAX 〇三(三三)七五(一)七一八(六)

### 法華宗(本門流)宗務院

管長	和田 日攝
宗務総長	川口 善教
庶務部長	大塚 正信
教化部長	岡澤 海宣
教学部長	三浦 成雄
財務部長	芹澤 泰謙

〒170 東京都豊島区北大塚一丁目二六番一四  
電話 〇三(三三)九一(〇)四七五(五)代  
FAX 〇三(三三)九一(八)七九九(四)

### 顕本法華宗宗務院

管長	古瀬 日宇
宗務総長	石井 義堅
宗務次長	中村 通義
財務部長	白井 謙光
布教部長	梶井 厳誠
教務部長	山本 学人
社会部長	小泉 隆昭
庶務部長	大塚 正純

〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一  
電話 〇七五(七九)二(七)一七(一)

### 法華宗(陣門流)宗務院

管長	野口 日桂
宗務総長	牧野 琢成
総務部長	土屋 善敬
教学部長	都築 哲信
教化部長	金原 戒雄
財務部長	江坂 隆俊
宗務参事	竹内 敬覚

〒170 東京都豊島区巢鴨五丁目三五番一六  
電話 〇三(三三)九一(八)七二九(〇)  
FAX 〇三(三三)五七(六)〇二二(二)

### 本門佛立宗宗務本庁

講有	梶本 日裔
講員	小山 日幹
宗務総長	井上 日慶
宗務副総長	齊藤 日敬

宗務本庁役員一同

〒602 京都市上京区御前通一条上ル東堅町二〇番地  
電話 〇七五(四六)一(一)一六六(六)代  
FAX 〇七五(四六)四(五)五九(九)

### 日蓮本宗宗務院

管長	嘉儀 日有
宗務総長	佐藤 智明
財務部長	原 眞昭
教務部長	依田 謙成
法務部長	依田 謙成

〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八  
電話 〇七五(七七)三(三)三九(〇)

### 法華宗(真門流)宗務庁

管長	上田 日源	参	吉田 勝秀
宗務総長	吉田 研宏	参	小島 玄城
総務部長	長鎌 泰信	総務主事	上田 浩岳
教学部長	上嶋 智岳	教化主事	岩崎 峻暉
教化部長	左神 信学	財務主事	笹木 研秀
社会部長	蓑輪 溪玉	教学主事	矢放 真文
財務部長	小西 法明		

〒602 京都市上京区智慧光院通り五辻上ル紋屋町  
電話 〇七五(四四)一(五)七六(二)

### 本門法華宗宗務院

管長	中村 日宣
宗務総長	吉村 信尚
宗務部長	信隆 允忠
財務部長	山下 通雄
庶務部長	藤井 宏長
総務部長	飯田 信栄
庶務部長	高田 誠亮
教務部長	木村 光紹

門下常任理事

〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五  
妙蓮寺  
電話 〇七五(四五)二(三)五二(七)

### 宗教法人 国柱会

会長	田中 香浦
理事長	加倉井 清信
副理事長	中平 千三郎
門下常任理事	大橋 邦正
本部事務局長	三田 道弘

〒132 東京都江戸川区一之江六一一九番一八  
電話 〇三(三三)五六(七)一一(一)代  
FAX 〇三(三三)五六(九)九八(〇)

### 京都日蓮聖人門下連合会

会長	和田 日攝
副会長	沖日 亨
理事長	岡澤 海宣
副理事長	本田 義遠

京門連事務局  
〒604 京都市中京区寺町通御池下ル  
大本山 本能寺内  
電話 〇七五(二三)一(五)三三(五)

### 日本山妙法寺

首座	上野 行量
長老	埴行 幸
長老	石山 善邦
長老	今井 行順

日印サルホヤ交友  
会誌発行編集人  
天鼓出版発行編集人  
日本山妙法寺事務局  
東京都千代田区九段北三丁目二二番一三  
松谷 被鎧  
東京都渋谷区神泉八丁目七

# 残暑お見舞い 門下連合会

<p>法華宗(陣門流)総本山 <b>本成寺</b></p> <p>〒955 新潟県三条市西本成寺一―一〇 電話 〇二五六(三三)〇〇〇八</p> <p>眞 首 野 口 日 桂      執 事 長 眞 保 行 宣      執 事 笹 原 壯 玄      執 事 西 山 英 仁      執 事 平 井 良 光      執 事 鈴 木 顕 正</p>	<p>顕本法華宗総本山 <b>妙満寺</b></p> <p>〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一 電話 〇七五(七九)七一一七 FAX 〇七五(七九)七二二六</p> <p>眞 主 古 瀬 日 宇      総 務 山 田 信 正      執 事 三 坂 岳 應      執 事 津 村 乘 信      執 事 安 東 靖 弘      執 事 山 本 晃 道</p>	<p>日蓮宗大本山 <b>池上本門寺</b></p> <p>〒146 東京都大田区池上一―一 電話 〇三(三三)三三三三 FAX 〇三(三三)三三三〇</p> <p>眞 首 田 中 日 淳</p>	<p>日蓮宗総本山 <b>身延山久遠寺</b></p> <p>〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延 電話 〇五五六(二)一〇一一 FAX 〇五五六(二)一〇九四</p> <p>法 主 岩 間 日 勇      総 務 藤 井 教 雄      役 職 員 一 同</p>
<p>本門佛立宗本山 <b>宥清寺</b></p> <p>〒602 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇五―一 電話 〇七五(四六)三三六二 FAX 〇七五(四六)三三六四</p> <p>住 持 水 谷 日 尚      二十世 眞 有      事務局長 伊 藤 英 夫      信使総代</p>	<p>日蓮本宗 <b>本山要法寺</b></p> <p>〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八 電話 〇七五(七七)一三三九</p> <p>眞 首 嘉 儀 日 有      大 学 頭 丹 治 日 遠      執 事 長 佐 藤 智 明      執 事 原 眞 昭      執 事 依 田 謙 成</p>	<p>本門法華宗 <b>大本山妙蓮寺</b></p> <p>〒602 京都市上京区寺之内通大宮東入妙蓮寺前町八七 電話 〇七五(四五)三三二七</p> <p>眞 首 中 村 日 宣      執 事 長 松 下 日 肆      役 職 員 一 同</p>	<p>法華宗(眞門流)総本山 <b>本隆寺</b></p> <p>〒602 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇 電話 〇七五(四四)五七六六 FAX 〇七五(四四)五七六六</p> <p>眞 主 上 田 日 源      執 事 小 島 玄 城      執 事 岩 崎 峻 暉      執 事 笹 木 研 秀      執 事 補 矢 放 真 文</p>
<p>日蓮宗大本山 <b>北山本門寺</b></p> <p>〒418-01 静岡県富士宮市北山重須 電話 〇五四四(五八)一〇〇四</p> <p>眞 首 片 山 日 幹      執 事 長 田 中 慈 潮</p>	<p>日蓮大聖人御靈跡 日蓮宗大本山 <b>本圀寺</b></p> <p>勅説にて京都に移遷の松葉ヶ谷草庵の靈跡</p> <p>〒607 京都府京都市山科区御陵大岩町六 電話 〇七五(五九)三九一九</p> <p>眞 首 水 谷 日 諦</p>	<p>日蓮宗大本山 <b>妙顕寺</b></p> <p>久遠成院日親上人御靈窟</p> <p>〒602 京都府京都市上京区寺ノ内堀川東入 電話 〇七五(四一)四〇八〇</p> <p>眞 首 沖 日 亨      執 事 長 山 田 一 光      執 事 原 光 司</p>	<p>立教開宗之靈地 出家得度之靈地</p> <p>日蓮宗大本山 <b>清澄寺</b></p> <p>〒299-55 千葉県安房郡天津小湊町清澄 電話 〇四七〇(九四)〇五二五</p> <p>別 当 小 林 日 芳</p>
<p>日蓮宗本山 <b>頂妙寺</b></p> <p>〒606 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六 電話 〇七五(七七)一〇五六一</p> <p>眞 首 土 屋 学 周      参 与 山 田 完 修      同 同 新 井 智 清      同 同 加 藤 通 雄      執 事 藤 井 照 源      同 同 川 合 陽 雄      同 同 二 之 部 知 孝</p>	<p>やくよけ祖師 日蓮宗本山 <b>堀之内妙法寺</b></p> <p>〒166 東京都杉並区堀之内三二四八―八 電話 〇三(三三)三三三三 ※平成四年度随身生募集中</p> <p>山 主 駒 野 教 格</p>	<p>久遠成院日親上人御靈窟</p> <p>日蓮宗本山 <b>本法寺</b></p> <p>重文涅槃図長谷川等伯筆 名勝巴の庭本阿弥光悦作</p> <p>〒602 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル 電話 〇七五(四四)二七九九七</p> <p>眞 首 金 山 寛 成</p>	<p>日蓮宗大本山 <b>法華経寺</b></p> <p>〒272 千葉県市川市中山二―一―一 電話 〇四七三(三四)三四三三</p> <p>眞 首 長 瀬 日 還      執 事 長 富 田 義 董      参 与 関 口 觀 康      同 同 新 井 智 清      同 同 植 田 觀 泰      同 同 廣 野 觀 順      同 同 土 田 勝 宏</p>



# 門連時報

## 恒例の京都理事会、開かる

平成三年十一月二十六日、日蓮宗本山立本寺に於て開催された。

理事会開催に先立ち、立本寺貫主藤田佳正現下導師のもと、伊藤通明理事長をはじめ参加者四十三名が法味言上をした。

記念撮影後、藤田現下に、「立本寺の沿革」を講演していただく。

引き続き、理事会を開催し、次第に従って会議を進め、上半期事業報告、京都門連事業、地方門連活動に関する件、門連の今後の活動に関する件、その他として討議報告、承認を行った。

その中の、門連の今後の活動に關

## 身延理事会、有意義に終る

平成四年の身延理事会は、六月二十二日(月)十一時より、伊藤理事長導師による祖廟御草庵跡、そして大本堂での法味言上より始まった。

議題は①及川真字師遷化に伴う監査推薦の件、②平成三年度事業報告の件、③平成三年度決算の件、④平成四年度予算の件、⑤地方門連に関する件、⑥門連だより刊行に關

する件、⑦門連の今後の活動に関する件、⑧その他、であり、①公認の監査二名のうち一名は、日蓮宗より推薦の東京都一乗寺住職肉倉貴義師が就任。もう一名は、門連理事経験者で東京近辺の方ということで、法華宗本門流の渡辺修翁師と顕本法華宗の山田信正師、二師が該当するの

で、事務局で依頼することです。その結果、山田信正師が就任することになった。事業報告並決算は報告通り承認された。平成四年度予算は原案通り承認されたが、分担金値上げを検討する場合は必ず常任理事会に諮ることが加えられた。地方門連に関する件については、大阪日蓮門下懇話会副理事長三田村宗鳳師より、北海道日蓮聖人門下連合会理事長白部健順師よりそれぞれ活動報告がなされた。門連だよりについては

は、第十一号発行の準備中であると報告があった。門連の今後の活動に關しては、日持上人顕彰や立教開宗会については、門下連合として、どう対応するかを検討すべきであり、小委員会等の設置を検討すべきであるとの提案がなされた。

この後、会場を移して懇親会が行なわれ和気あいあいのうちに終了。翌二十三日朝解散した。



門下連合会 身延理事会 祖廟参詣 (平成4年6月22日)

## 紙の紹介

顕本法華宗  
「心の宝」

5



第に発展しながら現在の「心の宝」に至っている。

◎「布教誌「心の宝」は昭和四十一年に発行されてより、月刊紙として二十数年の間に二四九号を数えたが、平成二年三月の第二五〇号を機に、年四回発行の季刊誌としてその内容外観共に一大転換をして歩み始めたところである。

◎この布教誌の歴史をふり返ると、「妙満寺教報」「顕本教報」「顕本心の宝」「統一新報」と次

上げた特集が組まれている。例えば「家庭教育を考える・しつけ」が特集され、教育現場の先生の眼から見た問題点、母親座談会を通して父兄の立場から見た「しつけ」、僧侶の立場からの意見と展開し、極々日常的な問題について、専門家や一般の人々の寄稿も多く掲載されていることから、読者には解りやすく、興味深い編集となっている。

◎今年度は「生老病死」を特集し、人間の生涯に係る根本問題に焦点を絞っている。暮らしの中にある、そうした問題を提議し、読者と共に考え、さらに信仰的立場から、安らぎと希望と勇気を読みとれる心の読み物とすべく編集努力がされている。新生「心の宝」の今後が期待される。

## 大好評頒布中 妙法蓮華經(一部經)

- 一部八卷本(六寸本) 三万三千元
- 一部八卷本(乾坤本) 二万円
- 要品(声明譜・回向文付) 五千元

(用紙は耐久性に優れた特漉本コウゾ紙を使用しています)



寸法：タテ18cm×ヨコ7.5cm×高さ5cm(1巻) 装幀：茶金

乾坤二卷本



(六寸本)寸法：タテ18cm×ヨコ7.5cm

八卷本



要品

寸法：タテ17.5cm×ヨコ7.5cm  
体裁：茶金、同帙つき、本コウゾ紙使用

## 日蓮宗新聞社

お申し込み  
お問合わせ 〒一四六 東京都大田区池上六一九一  
電話 〇三―三七五五―五二七一



各派・教団 短信



法華宗眞門流

【昨日平成三年は「日像菩薩六百五十遠忌」であり、四月十三日より十五日に至る間、大法会を総本山本隆寺において厳修され無事円成。引き続き各教区寺院において、遠忌法要が奉修された。その主な寺院は次の通りである。

法華宗陣門流

【昨日平成三年は五月二十九日、戦没者追悼法要・世界平和。交通安全祈願五月三十日、御歴代法要五月三十一日、永代祠堂霊位・納骨霊位・追善法要・寂光殿法要・米寿表彰が行なわれた。

本門佛立宗

【佛立青年教務会(40歳未満の若手僧侶の全国組織)では第五回佛立青年の翼を企画。本年9月11日から16日の4泊6日で、ハワイ別院参詣をメインに、全国の佛立青年90名余りが参加した。

法華宗本門流

【任期満了に伴う宗務所長選挙の結果、左の者が当選し、四月一日付をもって宗務所長に就任した。

本門法華宗

【宗門では昨年、御遠忌関連の諸事業も完了し、日像菩薩六百五十遠忌大法要も全門末の寺院、檀信徒が一体となり盛大のうち無事奉修されたのを期に、来る平成6年には大本山妙蓮寺開創七〇〇年を向へるに当りより一層躍進への準備に入った。

日蓮宗

【二月十八日、新高輪プリンスホテル「飛天の間」において、身延山法主岩間日勇現下の第四十七代日蓮宗管長御就任の祝賀会が、約八百名の参加を得て盛大に行なわれた。

国柱会

【昭和天皇の御製「12万部を達成。普及運動を引き続き展開中」平成3年中は全国各地の連合会主催で「日蓮主義の基本を学ぶ」講習会を開催。本年は同じく各地で「御修行を学ぶ」儀典研究会を開催。

日蓮本宗

【平成3年から平成4年にかけて、第三教区妙国寺(山形県・住職原田智光師)、不動院(福島県・住職半沢智弘師)、第五教区浄福寺(鳥根県・住職田中良英師)では、文字通り寺檀界体同心となって宿願の本堂が落成をみた。妙国寺は平成2年1月18日裡裡から出火、本堂も全焼した。爾來本堂新建立を發願、建設委員会を結成し、三十数回の会合を開き、精力的に募財活動を進めた。平成3年11月22日落成大法要を奉修した。不動院は、当初第三教区妙藏寺(福島県・住職佐藤智明師)別院であったが、昭和62年独立し寺格を得た。建造物の老朽腐食著しく、信徒の増勢と勸財が進み、平成3年9月17日落成大法要を奉修した。両寺とも管長・本山要法寺貫首日有現下が落成大法要の大導師を勤められた。浄福寺は斐伊川と神戸川合流の活水対策事業にともなうて移転工事が進められていたが、平成4年5月7日日本堂落成大法要を厳修した。

日蓮宗

【平成3年度の教師研修会は、平成4年2月6日日興上人御正當御遠夜法要に開講式、翌7日御正當に本山法要寺において開かれた。とくに国民的課題である「同和・人権問題」を研修題として、講師に京都学園大学和田富義先生を招き研修を深めた。なお宗務当局任期満了により、7月10日住友第一内局は退任し、佐藤智明内局が就任、平成6年5月8日の本山要法寺御開山日興上人第六百五十遠忌に向けて本格的な準備を進めることになった。

日蓮聖人門下連合会

【目的】本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。【事業】本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。1. 祖廟維持の組織強化 2. 教育事業の提携 3. 布教の連合強化 4. 懇談会・研究会・講演会等の開催 5. 各種出版物の刊行 6. 海外布教の提携及び交流 7. 対外的な各種の運動 8. その他【加盟団体】日蓮宗 法華宗本門流 本門法華宗 法華宗陣門流 日蓮本宗 法華宗眞門流 本門法華宗 国柱会 日本山妙法寺 京都門下連合会

川西市 久成寺(田中諦常住職) 四月二十八日、総本山本隆寺貫主上田日源現下大導師により遠忌法要が執行され、同時に中興開山三百七十年忌・篤信者通称「久代伝兵衛さん」二百五回忌がとめられた。

【日本山妙法寺】平成3年元旦祝賀会皇居御祈念。8・9両日恩師行勝院日達上人七回忌熱海道場修身延其他内外来賓参加。

【本門法華宗】宗門では昨年、御遠忌関連の諸事業も完了し、日像菩薩六百五十遠忌大法要も全門末の寺院、檀信徒が一体となり盛大のうち無事奉修されたのを期に、来る平成6年には大本山妙蓮寺開創七〇〇年を向へるに当りより一層躍進への準備に入った。

【日蓮宗】二月十八日、新高輪プリンスホテル「飛天の間」において、身延山法主岩間日勇現下の第四十七代日蓮宗管長御就任の祝賀会が、約八百名の参加を得て盛大に行なわれた。

【国柱会】昭和天皇の御製「12万部を達成。普及運動を引き続き展開中」平成3年中は全国各地の連合会主催で「日蓮主義の基本を学ぶ」講習会を開催。本年は同じく各地で「御修行を学ぶ」儀典研究会を開催。

【日蓮本宗】平成3年から平成4年にかけて、第三教区妙国寺(山形県・住職原田智光師)、不動院(福島県・住職半沢智弘師)、第五教区浄福寺(鳥根県・住職田中良英師)では、文字通り寺檀界体同心となって宿願の本堂が落成をみた。妙国寺は平成2年1月18日裡裡から出火、本堂も全焼した。爾來本堂新建立を發願、建設委員会を結成し、三十数回の会合を開き、精力的に募財活動を進めた。平成3年11月22日落成大法要を奉修した。不動院は、当初第三教区妙藏寺(福島県・住職佐藤智明師)別院であったが、昭和62年独立し寺格を得た。建造物の老朽腐食著しく、信徒の増勢と勸財が進み、平成3年9月17日落成大法要を奉修した。両寺とも管長・本山要法寺貫首日有現下が落成大法要の大導師を勤められた。浄福寺は斐伊川と神戸川合流の活水対策事業にともなうて移転工事が進められていたが、平成4年5月7日日本堂落成大法要を厳修した。

【日蓮聖人門下連合会】目的：本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。事業：本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。1. 祖廟維持の組織強化 2. 教育事業の提携 3. 布教の連合強化 4. 懇談会・研究会・講演会等の開催 5. 各種出版物の刊行 6. 海外布教の提携及び交流 7. 対外的な各種の運動 8. その他

大東市 清涼寺(井内啓善住職) 十一月三日、上田日源現下大導師のもと、御会式・遠忌法要ならびに庫裡新築落慶法要が執行された。

【日本山妙法寺】平成3年元旦祝賀会皇居御祈念。8・9両日恩師行勝院日達上人七回忌熱海道場修身延其他内外来賓参加。

【本門法華宗】宗門では昨年、御遠忌関連の諸事業も完了し、日像菩薩六百五十遠忌大法要も全門末の寺院、檀信徒が一体となり盛大のうち無事奉修されたのを期に、来る平成6年には大本山妙蓮寺開創七〇〇年を向へるに当りより一層躍進への準備に入った。

【日蓮宗】二月十八日、新高輪プリンスホテル「飛天の間」において、身延山法主岩間日勇現下の第四十七代日蓮宗管長御就任の祝賀会が、約八百名の参加を得て盛大に行なわれた。

【国柱会】昭和天皇の御製「12万部を達成。普及運動を引き続き展開中」平成3年中は全国各地の連合会主催で「日蓮主義の基本を学ぶ」講習会を開催。本年は同じく各地で「御修行を学ぶ」儀典研究会を開催。

【日蓮本宗】平成3年から平成4年にかけて、第三教区妙国寺(山形県・住職原田智光師)、不動院(福島県・住職半沢智弘師)、第五教区浄福寺(鳥根県・住職田中良英師)では、文字通り寺檀界体同心となって宿願の本堂が落成をみた。妙国寺は平成2年1月18日裡裡から出火、本堂も全焼した。爾來本堂新建立を發願、建設委員会を結成し、三十数回の会合を開き、精力的に募財活動を進めた。平成3年11月22日落成大法要を奉修した。不動院は、当初第三教区妙藏寺(福島県・住職佐藤智明師)別院であったが、昭和62年独立し寺格を得た。建造物の老朽腐食著しく、信徒の増勢と勸財が進み、平成3年9月17日落成大法要を奉修した。両寺とも管長・本山要法寺貫首日有現下が落成大法要の大導師を勤められた。浄福寺は斐伊川と神戸川合流の活水対策事業にともなうて移転工事が進められていたが、平成4年5月7日日本堂落成大法要を厳修した。

【日蓮聖人門下連合会】目的：本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。事業：本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。1. 祖廟維持の組織強化 2. 教育事業の提携 3. 布教の連合強化 4. 懇談会・研究会・講演会等の開催 5. 各種出版物の刊行 6. 海外布教の提携及び交流 7. 対外的な各種の運動 8. その他

【本門法華宗】宗門では昨年、御遠忌関連の諸事業も完了し、日像菩薩六百五十遠忌大法要も全門末の寺院、檀信徒が一体となり盛大のうち無事奉修されたのを期に、来る平成6年には大本山妙蓮寺開創七〇〇年を向へるに当りより一層躍進への準備に入った。

【日蓮聖人門下連合会】目的：本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。事業：本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。1. 祖廟維持の組織強化 2. 教育事業の提携 3. 布教の連合強化 4. 懇談会・研究会・講演会等の開催 5. 各種出版物の刊行 6. 海外布教の提携及び交流 7. 対外的な各種の運動 8. その他